学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2023年５月30日
第 13号

バスケットボール部 高体連支部優勝

速いパス回しで攻める

5月25日、26日、バスケットボールの高体連支部大会が開催され、5チームが出場し、4チームが決勝リーグに進んだ。本校は3戦全勝で優勝し、6月15日から北見で開催される全道大会に出場する。進化するバスケットボール部の強さの秘密を岸野さんに聞いた。

表彰式を終えて、双葉ポーズで記念写真。

キャプテンの岸野未悠さん（3-3）は「ドリブルをなるべく少なくすることを課題にこれまで練習してきました。試合でドリブルに頼らず、パス回しを速くして攻めることをみんな意識してきました。」と語る。その甲斐あって、支部大会では大差をつけて優勝した。

全道に向けては「試合の入りが課題です。自分たちのシュートが入らなくてもディフェンスやリバウンドでカバーして、開始早々で決着がつく試合にならないように最後まで集中して戦いたい」と述べる。また、「スタメン5人で戦うのではなく、ベンチを含め、チームみんなで戦えるように一つになりたい」と抱負を述べてくれた。

スタメン

1. 長　凜華（2-2）
2. 和田鈴菜（3-3）
3. 菊地紗那（2-2）
4. 岸野未悠（3-3）
5. 早川茜里（2-3）

決勝リーグ

小樽双葉 119-35 倶知安
小樽双葉 112-27 小樽水産
岩内
未来創造
（合同チーム）
小樽双葉 103-53 小樽潮陵

バドミントン部 三年生「悔いなくやり切った」

3年生4名、2年生2名、1年生8名で高体連支部大会に臨んだバドミントン部、団体戦は初戦で敗退した。個人戦ではダブルスで相田（3-1）・馬場（3-3）組が2回戦、シングルスで相田、竹原（3-3）が2回戦へ進んだ。3年生4名はそれぞれ、「悔いなく終えることができた」と語っている。

相田光毅くん（3-1）は小学校からバドミントンをやっている。最後の大会で思い残すことのないような試合ができたと振り返った。「点差がついても諦めず、自分のプレーに徹することができた。」特進クラスのため、勉強との両立に努め、週2回ほどの練習となった。

生徒会長の竹原大貴くん（3-3）は生徒会活動で忙しい中、時間を見つけ、週2、3回練習に励んだ。「シングルスも団体もそれぞれ1勝できて、うれしい」と語った。後輩には「時間配分を上手に」と助言している。

配慮し支え合う、今後も

部長の馬場遊聖くん（3-3）はダブルスで1勝し、「最後の大会で思い切ってやり切れた」と語った。人数が揃わない日もあったが、工夫して練習してきた。後輩には「2年生2名でチームをまとめるのは大変だと思うが、自分のできることを最大限やったらよい。1年生は特進の人が多いが、自分のやるべきことをやった上で両立してほしい」と語っている。

長谷川亜莉さん（3-4）は結果を残せなかったが後悔はない。生徒会やバイトがあり、週2、3回の練習だったが、「みんな受け入れてくれた。理解し尊重し合える仲間に会えるのでリフレッシュし、明るい気持ちになれた」と語った。

1年生が8名入ったバドミントン部